

みことばと祈りによって

2024年5月26日

ヘブル人への手紙 4章12～16節

序：1章～4章（神のことば、イエス・キリストの卓越性）

5章～10章（大祭司イエス・キリスト）

今日の4・14～16は連結の部分

1・1～4・11には神の安息に入る人
神の安息に入らせられない人 がいることが告げられた

安息に入る人は、神＝創造者、イエス・キリスト＝私の罪の贖い主、さばき主と
信じ、信頼して、來たるべき完成のときに希望持ち続ける

安息に入らせてもらえない人は、神に反抗し背き、罪の解決をイエスに求めない
聞いていながら、不信仰、不従順（頑な）

この手紙は、ローマ帝国の各地に離散しているユダヤ人キリスト信者宛
彼らは弾圧・迫害を受け、背教の危惧あり 信仰を確認し、励まされる必要があった
異邦人からもユダヤ人からも迫害された

安息に必ず入るためには、落伍せず、後退せず、信頼する、従順するようにとの勧め

そのために、有効かつ不可欠な手段が2つある

①みことば ②祈り

I. 神のことば（聖書）

(1) 生きている（∵神は生きておられる）
（∵いのちがある）
（∵食べる者は生きる、生かされる）

(2) 力がある（∵神は力ある方だから）
（∵受ける者は強められる）

(3) 鋭い（∵剣、刺し通す、細部にわたって区別、判別（はかりごと）
心の思い

II. 神の目

(1) 被造物のすべてを見通しておられる、すべてを知っておられる
” は正体をさらけ出し、あらわ、裸

(2) ゆえに我々は主の御前で申し開きをしなければならない
主から全てのものをあずかり、どう使ったかを報告する義務

III. 祈り

(1) 神との対話 霊の呼吸

(2) それには仲介者が必要（神と人との間に立って執り成す）

Ⅱ テモテⅠ 2・5
① 大祭司＝神の子イエス ローマ8・34
諸々の天を通られた（第一、第二、第三）

私たちの弱さに同情（受肉して限りある人間となり、人間が経験する
同様の試練・誘惑に会う （喜怒哀楽すべてを味わい尽くされた）

罪を犯さなかった（神であるゆえ、救い主の資格）

②御霊

ローマ 8・26～27

(3)大胆に恵みの御座に近づこう

↓
イエスの座しておられる父の右の座

- ①あわれみを受けるため
本来は受けることができなかったが、主の贖いによって受けられる
罪赦された者ゆえのあわれみ
- ②恵みをいただくため
折りになかった助けとなる恵みを得るため
- ③はばかることなく、恐れることなく
主は私たちが祈りと願いをささげるのを待っておられる

Ⅳ. 結び

- (1)私たちは天の安息に入るために、地上では旅人、寄留者として歩んでいる
cf. エジプトを出て、約束の地カナンを目指す荒野を放浪するイスラエル
- (2)イスラエルと同じく、神への不信仰、不従順によって落伍しないようにと警告と
勧めを与えられている
- (3)安息に入るために力を尽くし務めよ
- (4)具体的にはみことば（霊の糧）と祈り（霊の呼吸）が必要不可欠
質をいう前に量（時間を割いてみことばを摂取し、神との交わり＝祈りに費やす
23日の伊藤長老の証し（基調のみことば＋日々与えられるみことば）
（起床してから最優先はディボーション）
（毎日の家庭礼拝、定期的に家庭集会）
聖徒たちの交わりの中心、クリスチャン生活の根の部分、全体を支える
- (5)みことばのいのちと力と鋭さを体験する
- (6)いくら隠しても、神の御前では、すべて裸でさらし出されている。取り繕ったり
言い訳せずに、悔い改めて赦される経験を重ねるほうがよい
- (7)祈りによって成し遂げられることの膨大さ、確実さを私たちは殆ど体験したこと
がない。それは祈らないからであり、祈っても信じて祈らないからだ
祈りによる力は、祈る人によって、神から引き出され、ほぼ無限に発揮されると
知るなら、祈りの生活は大きく変わる
- (8)神の子どもはもはや、罪に定められない。臆することもちゅうちょすることも
恐れたり疑うこともなく、父に祈り、願うことができる
しかも、天にあってはイエス・キリストが、内にあっては聖霊が私たちの祈りを
とりなしてくださっている 完全な祈りとして御前にささげてくださるために
- (9)心をかたくなにして、不信仰&不従順の罪に陥らないために、日々みことばと
祈りによって、歩みを正し、守り導いてくださる大祭司イエス・キリストをさら
に慕い求めよう ついに安息に入るまで